

# 大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-753-3013 (直通)

## 大学図書館における研究者サービスについて

立命館大学図書館 松原 修

今日の図書館サービスの在り方は、情報量が膨大なものになり、かつこれらの媒体が多様化していく中で、利用者のニーズにあった情報を様々なネットワークを通じていかに迅速に提供するかという段階に発展して来ている。

さらにはオンライン情報検索の発達にともなうSDIサービスなどに代表されるように、利用者ニーズを図書館が掘り起こして行く方向に発展して行くであろう。

そしてその中でも大学図書館は大学における教育・研究を支える中枢的な役割を果すものであり、大学が果すべき社会的役割から鑑みると、より高いレベルでの情報提供サービスが求められるであろう。

大学図書館は従来、学生の教育・学習を支える機能を中心として担ってきており、研究支援サービスという側面ではあまり積極的な役割を担ってこなかった。

しかし前述したように情報が膨大かつ多様になり、学問分野が広がりを見せて行く中で研究者に対してのレファレンスサービスを中心とする積極的な情報提供支援を図書館が担

うことを期待されて来ている。

ところで研究者の図書館のレファレンスサービスに対するニーズは大きく分けて①一次資料の所在調査（一次資料の提供を含む）

②一次資料に関する情報の提供（出版情報・SDIサービス等）③二次資料の提供 ④データベースの代行検索 ⑤事項調査の大きく5つに分けられるであろう。

このようなニーズに適確かつ迅速に responding するためには、様々な形で図書館及び図書館員の在り方が問われて来るであろう。そしてこれらの課題に応えるべく1つの手段として、図書館及び図書館員間の様々なレベルでの共同化・ネットワーク化が必要になって来る。その1つの例が情報の共同化・ネットワーク化という側面での学情センターであり、一次資料の流通という面では活発になりつつある相互利用制度などが上げられる。また国際化の進展にともなって海外とのネットワークの必要性が強く生じて来っており、これも図書館の1つの発展段階としてとらえることができるのではないだろうか。

そして今後は、コンピュータや通信技術の

発達によってより高いレベルでの共同化・ネットワーク化の在り方が模索されて行くであろう。

しかし大学図書館における研究者サービスは、まだ未発達な部分であり、前述したような手段を有効に使う前提条件として図書館の研究者に対する積極的な働きかけと信頼関係を様々なケースのなかで構築していかなければならない。

ここでこの間に研究者に対して行ったレファレンスサービスを2つほど例として上げてみたい。

1つは1980年代のアメリカの航空宇宙産業に関する図書及び雑誌のリストが欲しいとの依頼であった。これについては、本学図書館にはNACISIS-IRが導入されているのでキーワードを研究者とのインタビューの中で絞り込み、COMPENDEX、Ei Engineering Meetings、ISTP&B、Social SciSearch、LCMARCなどで文献リストを作成し、研究者にどの文献が必要か選択してもらい、国内の大学図書館、国立国会図書館及びLC、BL等に所蔵調査を行い一次資料の複写を研究者に提供した。

2つめはジャック・ロンドンの自伝を翻訳している研究者が20世紀前半の朝鮮半島に存在する村の地名が5つほど英語で記載されているが、その地名の読みと漢字を知りたいとの調査依頼であった。これについては本学にある地名辞典や地形図、地名関係文献解題

事典や朝鮮研究文献誌に掲載されている資料等を見たが解明できなかった。

そこで国立国会図書館に羅馬字索引朝鮮地名学彙など多くの資料が所蔵されているのでレファレンスを申し込み、朝鮮民族運動史研究などの雑誌を出版している青丘文庫、東京都立大の朝鮮史研究会、天理大学の朝鮮学会、猪飼野朝鮮図書資料室、韓国の国会図書館に調査を依頼した。

その結果、国会図書館をはじめとする3つの機関から回答があり、他館の大きな協力を得て研究者に結果を報告することができた。

このように1件、1件様々なネットワークや媒体を利用し、積極的に取り組むことが大切であり、そこから広げて行き研究者と図書館との信頼関係を深めていくことから始めなければならないだろう。

そしてこれらの取り組みには、一つの図書館の中でより強い共同化が必要となり、さらにはそれを越えた図書館間での協力化・共同化も必要になり、制度的なものや組織的なものが模索されていかなければならなくなるだろう。

大学図書館にとって研究者サービスという課題は大変重たいものではあるが、避けては通れないものであり、今後様々な形で積極的な役割を果して行かなければならなくなるであろうし、これらに積極的に応えていかなければならない。

## 土木図書室書庫倒壊事件

蒲 彰子（京都大学工学部土木系図書室）

3月14日、昼食を終えて戻ってきたら、書庫のスチール製書架がすべて将棋倒しになっていた。中身の本はいうまでもなく床に放り出されてしまった。

どうしてそんな派手な事態になってしまったのか。

私のいる京都大学工学部土木系図書室は、土木工学・交通土木工学・衛生工学の3教室共通の図書室で、蔵書数は5万4千、職員は3人、京大の理工系の教室図書室としては小さくない規模である。工学部土木総合館の東側に位置し、閲覧室（職員席を含む）、新着雑誌室、書庫から成る。書庫とはいうものの、製本雑誌や卒論・修論など学生や教官が頻繁に利用する資料が置いてあるので、開架になっている。書庫の真上と真下、つまり4階と2階は講義室になっているが、この3階だけは当初から書庫に充てる計画で床を補強してあるということである。

書架は4連×27列が通路をはさんで左右に2組並ぶ。その上部に鋼材を縦横に渡し、周囲の壁（南側、東側、西側）の4カ所にボルトで留め、書架が固定してあった。ただし、北側については、書架が後から追加され、しかもいちばん北側にある書架は木製だったこともあって、鋼材は北側の壁に固定されていなかった。

これは私の想像だが、長い間（約30年）に支えのない北方向に向かって力がかかり、書架全体が傾いてきていたのだろう。指摘されて初めて気がついたのだが、書架の倒れる前、南側の壁のボルトはほぼ抜けかかり、東側に固定してあった鋼材は、垂直にかかる力に抗しきれず曲がっていた。

それをどうにか立て直そうと業者をよんでみてもらっていた最中に事故が起きた。何かきっかけさえあれば、いつ倒れてもおかしくない状態だったそうである。

不幸中の幸いは、卒論・修論の提出日も過ぎており、しかも昼休みで、業者2人の他に書庫には誰もいなかったことである。業者の人たちも、書架が比較的ゆっくりと倒れたせいで、かすり傷程度ですんだ。ただ、当日、書庫の真上と真下の教室に入試のために集まっていた受験生のみなさんは、さぞかしびっくりしたことでしょう。

事故からちょうど1か月たった今も、書庫は相変わらずそのままでの状態である。「まだ使えないのか」「何か月かかるのか」という利用者の声に心が痛むが、あまりにも修復の規模が大きいため図書室だけで事を進めるわけにはいかなくなっている。教室図書室であるという事情もある。長期間利用できない罪滅ぼしは、以前より数倍利用しやすい書庫に再生することだろう。

まさかこんなことは滅多に起こりもしないだろうが、念のため皆さんの図書室の書庫も点検してみてもはどうでしょうか。

大学図書館問題研究会 テーマ別研究集会 (第5分科会)

### オンライン目録と主題検索

(期日) 6月23日(土)～6月24日(日)

(会場) きっかわ観光ホテル (広島市中区上鞆町 7-1 tel. 082-223-1000)

(内容)

6/23 14:00～14:30 受付

14:30～14:40 挨拶

14:40～15:40 (1)「目録の質の変化に対応して」赤坂良孝 氏

15:50～16:50 (2)「研究事例報告」京大・相関索引作成グループ

(各々のあと若干の質疑応答をおこないます。)

18:00～ 懇親会

6/24 9:00～10:30 講演「オンライン目録と主題からの検索」丸山昭二郎 氏

10:30～11:00 質疑

11:00～11:50 全体討論

11:50～12:00 挨拶

(参加費用) 当日徴収します。

参加費 3,000円

懇親会 5,000円

宿泊(朝食付) 洋室(S)5,000円 (いずれかご希望があれば連絡を)

和室 4,400円(3人or 6人)

(申込先) 郵便番号732 広島市東区牛田東 4丁目13-1

広島女学院大学図書館 土屋時子

tel. 082-228-0386(内線264)

(申込締切) 6月9日(土) できましたら「文書」または「葉書」で上記へ